実践編

1　一斉指導・個別指導１年間の流れ

（1）第１回　直音音読検査
（2）アプリケーションによる個別指導①
（3）第２回　単音音読検査
（4）アプリケーションによる個別指導②
（5）第３回　単音・単文音読検査
（6）その他のアプリケーションによる個別指導

2　（1）事例Ａ
（2）事例Ｂ
（3）事例Ｃ
（4）事例Ｄ

3　一斉指導でのアプリケーション活用

安孫子　晃　≪サンドアート≫

仲村　春花　≪ルンデ≫

1　一斉指導・個別指導１年間の流れ

校内体制

保護者への周知
- 保護者会や個人面談で説明
- お知らせ文書配布 ３９、４０、４１ページ参照

音読検査及び個別指導を実施するための校内
- 音読検査の実施場所の確保
- 検査実施中の他児童の指導体制の整備
- 個別指
- タブレ

音読検査

ひらがなを学習する１年生全員の音読の実態を正確に把握し、読みに困難がある児童を見逃さないために、全員を対象にして音読検査を行う。

（１）第１回　直音音読検査
１４ページ参照
※1（１年生全児童対象）

１年生全員の、ひらがなの読みの実態を把握するために、直音の音読速度と読みの正確さについて検査を行う。

〔実施検査〕直音音読検査

（３
１６ペ
１
の読
音＋
つい
〔実

４月	５月	６月	７月	８月	９月

個別指導

音読検査により、個別指導が必要と判断された児童に対し、アプリケーションを使用して個別指導を行う。

（２）アプリケーションによる個別指導①
（ひらがな直音）
１５

第１回　直音音読検査において、直音の読みて指導が必要と判断された児童に対し、タブレにダウンロードしたアプリケーション「ひらが
を活用し、個別指導を行う。

（６）その他のアプリケーションによる個

読むことへの困難が大きい児童や、集中の続

一斉指導

個別指導で使用するアプリケーションを一斉指導でも活用し、学級全体でも読みの練習を行う。

アプリケーションを活用した一斉指導

１年生の「ひらがな」を読む力について、一人一人の事態把握を行い、課題のある児童に早期から必要な支援を行うことはとても大切です。アプリケーションを使った簡単な音読指導で成果の得られやすい「Ｔ式ひらがな音読支援」の方法を紹介します。

支援体制の整備

導を実施するための指導体制の整備
ット等の準備

・担当分掌の設置
・検査記録管理体制の整備

）第２回　単音音読検査※2（１年生全児童対象）

ージ参照

年生全員の、よう音を含めたひらがなみの実態を把握するために、単音（直よう音）の音読速度と読みの正確さにて検査を行う。

施検査〕単音音読検査

（５）第３回　単音・単文音読検査※3（個別指導を実施している児童のみ対象）

１８ページ参照

アプリケーションを活用した個別指導を実施している児童の指導効果を確認するため、単音と単文の音読速度と読みの正確さについて検査を行う。

〔実施検査〕　単音音読検査・単文音読検査

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月

ページ参照

について
ット等
な直音」

（４）アプリケーションによる個別指導②（ひらがな単音）

１７ページ参照

第２回　単音音読検査において、単音の読みについて指導が必要と判断された児童に対し、タブレット等にダウンロードしたアプリケーション**「ひらがな単音」**を活用し、個別指導を行う。

継続した個別指導

１９ページ参照

第３回　単音・単文音読検査において、指導が必要と判断された児童に対し、更に継続して個別指導を行う。

別指導（随時）

１９ページ参照

きにくい児童に**「音読アプリ１」・「音読アプリ２」**を活用し、個別指導を行う。

２８ページ参照

※１　直音とは、日本語の音節のうち、よう音・促音・はつ音以外の音で、一音節が、かな一字で表されるもの
※２　単音とは、音声の連続を分解して得られる最も小さい音の単位。直音・よう音
※３　単文とは、本検査の中で使用する短い文章のこと

１－（１）第１回　直音音読検査（６月実施）

第１回　直音音読検査は、ひらがなの読みの実態を把握するために、直音の音読速度と読みの正確さを測定する検査です。

- 対象児童：１年生全員
- 実施時期：６月頃

準備する物

- 直音音読検査表 ３２～３４ページ参照（３枚の表を横につなげる。）
- 直音音読検査記録用紙 ３５ページ参照（児童の人数分）
- タイマー（ストップウォッチ）
- 実施場所と実施体制の確保

実施手順

① 児童の前に直音音読検査表（３枚を横につなげたもの）を置く。

「ここに書いてあるひらがなを、縦に、このように（指で２行目辺りまでをたどって見せて）、声を出して順に読んでください。」

「１分間を図るので、間違えないように、できるだけ早く読んでください。分からないものは、飛ばしても構いません。『終わり』と言ったらやめてください 」

② 最初の部分を手で隠す。

③ 隠していた手を離し、タイマーのスタートを押す。

「では始めます。スタート」

●音読中は読み飛ばし（✓）、読み誤り（×）、自己修正（△）を記録用紙に記入する。
●児童がシートを持って読んだり、指さししながら読んだりしてもよい。ただし、ペースを誘導する可能性があるので、検査者が文字を順に指さすことは行わない。

④ １分経過したらタイマーを止める。

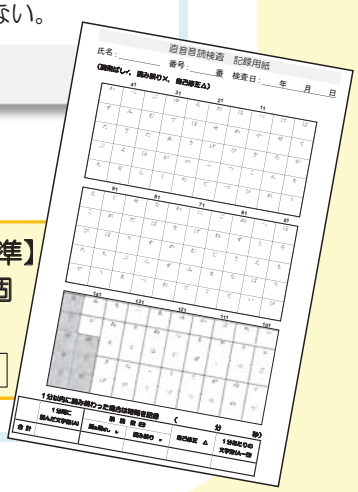
「終わり」

※タイマーの音に驚いたり緊張したりする児童には、音の出ない物を使用する。

⑤ 読んだ文字数、読み飛ばし、読み誤りなどを直音音読検査記録用紙に記入する。

【直音音読検査　結果の判断基準】
１分間の音読文字数が 54 個以下の場合は個別指導を実施

１５ページ参照



１－（２）アプリケーションによる個別指導①（６月～11 月）

第１回　直音音読検査で個別指導が必要と判断された児童に対し、アプリケーションを使って楽しみながら読みの力を伸ばす取組を実施します。

１日５分間の学習を学級での指導に取り入れてください。１日１回の個別指導を連続して 21 日以上行います。

アプリダウンロードの仕方

スマートフォン、タブレットに**「音読指導統合版アプリ」**をダウンロードし、読み書き障害児童への個別指導に活用します。

① タブレット等のアプリダウンロード画面で、「鳥取大学」を検索する。

② **「ディスレクシア音読指導アプリ　単音直音統合版」**を選び、ダウンロードする。

- 一度ダウンロードしたアプリケーションは、ネットワークに接続せずに使用できる。
- この統合版は、直音・単音が統合されたアプリケーションである。
- 10 名までのユーザーが利用可能である。

アプリケーションによる個別指導①の実施手順

① アプリケーションを起動する。

② ユーザー名を登録する（２回目以降は登録済のユーザー名を使用）。

③ **「ひらがな直音」**を選択する。

④ 練習を開始する（表示される直音を児童に発音させる。）。
指導する大人が○、×を判断して押す。

○：音声が出る前に読めた場合
×：読めない（読み間違い）又は音声が先（同時）に出た場合

⑤ ５分経過し、アプリケーションが自動的に終了するまで音読を進める。

- １日１回５分間の個別指導を連続して 21 日以上行う。
- ３回正答した文字は消去されていく。学習効果が上がった場合、指導時間は短くなる。
- 学習後、結果を見ながら児童と共に学習成果を振り返ることができる。

１－（３）第２回　単音音読検査（11 月実施）

第２回　単音音読検査は、単音（直音＋よう音）の音読速度と読みの正確さを測定する検査です。第１回　直音音読検査は直音だけでしたが、第２回は、よう音も含めた検査です。

- 対象児童：１年生全員
- 実施時期：11 月頃

準備する物

- 単音音読検査表３６ページ参照
- 単音音読検査記録用紙３７ページ参照（児童の人数分）
- ストップウォッチ
- 実施場所と実施体制の確保

実施手順

① 児童の前に単音音読検査表を置く。

「ここに書いてあるひらがなを、縦に、このように（指で２行目辺りまでをたどって見せて）、声を出して順に読んでください。」

「間違えないように、できるだけ早く、全部読んでください。分からないものは、飛ばしても構いません。」

② 最初の部分を手で隠す。

③ 隠していた手を離し、最初の文字を読み始めたらストップウォッチのスタートを押す。

「では始めます。スタート」

※音読中は読み飛ばし（✓）、読み誤り（×）、自己修正（△）を記録用紙に記入。
※シートを持って読んだり、指さししながら読んだりしてもよい。ただし、ペースを誘導する可能性があるので、検査者が文字を順に指さすことは行わない。

④ 最後の文字を読んだらストップウォッチを止める。

⑤ 所要時間、読み飛ばし、読み誤りなどを単音音読検査記録用紙に記入する。

【単音音読検査　結果の判断基準】
① 音読表（５０文字）を全て読み終えるのに要した時間が６３秒以上
② 「読み飛ばし文字数」と「読み誤り文字数」の合計が６文字以上
①、②いずれかに該当した場合、個別指導を実施
１７ページ参照